

令和2年(2020)12月 入域観光客数概況

32万6,200人
 対前年(R1)同月比 -42万8,900人、-56.8%
 ~12月としては対前年同月比で過去最大の減少数~

入域状況

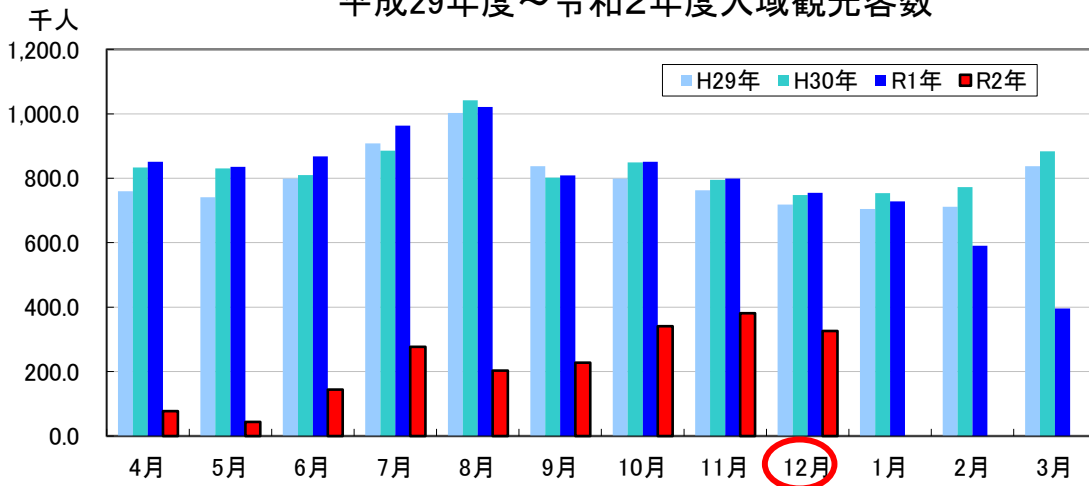
入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**含む**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	326,200 人	572,700 人	△ 246,500人	△ 43.0%	100.0%
外国客	0 人	182,400 人	△ 182,400人	皆減	0.0%
合計	326,200 人	755,100 人	△ 428,900人	△ 56.8%	100.0%

【参考】入域観光客数(令和元年度との比較) ※外国客については、乗務員等を**除く**

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
国内客	326,200 人	572,700 人	△ 246,500人	△ 43.0%	100.0%
外国客	0 人	157,000 人	△ 157,000人	皆減	0.0%
合計	326,200 人	729,700 人	△ 403,500人	△ 55.3%	100.0%

平成29年度～令和2年度入域観光客数



国内客 入域状況

12月は、県外空港と那覇空港とを結ぶ路線における減便や全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴う旅行を控える動きの影響などから、前年同月を大きく下回った。

1月は、航空路線における減便規模の拡大やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

12月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、皆減となった。

1月は、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	164,800 人	277,900 人	△ 113,100人	△ 40.7%	50.5%
関西方面	66,600 人	114,000 人	△ 47,400人	△ 41.6%	20.4%
福岡方面	42,100 人	74,000 人	△ 31,900人	△ 43.1%	12.9%
名古屋	30,400 人	47,300 人	△ 16,900人	△ 35.7%	9.3%
その他	22,300 人	59,500 人	△ 37,200人	△ 62.5%	6.8%
合計	326,200 人	572,700 人	△ 246,500人	△ 43.0%	100.0%

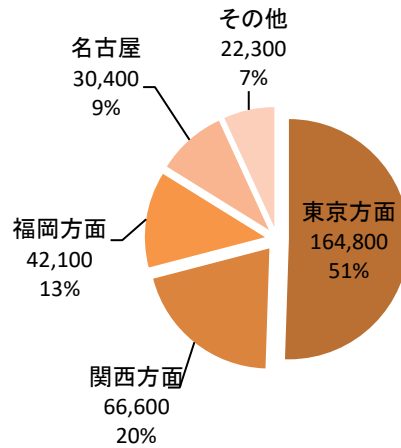
※国内海路客700人を含む(鹿児島700人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R2年度	R2年度	R1年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	52,600 人	△ 52,600人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	10,500 人	△ 10,500人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	47,400 人	△ 47,400人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	24,100 人	△ 24,100人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	3,500 人	△ 3,500人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	2,900 人	△ 2,900人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	5,000 人	△ 5,000人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	36,400 人	△ 36,400人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	182,400 人	△ 182,400人	皆減	N/A

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
韓国	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
中国本土	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
香港	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
アメリカ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
タイ	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
シンガポール	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
その他	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A
合計	0 人	0 人	皆減	N/A	0 人	0 人	皆減	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

12月は、前年同月比40.7%減の164,800人であった。先島路線では対前年同月並みであったものの、成田－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。
1月は、羽田－那覇路線などでの減便規模の拡大や、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

12月は、前年同月比41.6%減の66,600人であった。先島路線では対前年同月並みであったものの、関西－那覇路線などで減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。
1月は、関西－那覇路線などでの減便規模の拡大や、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

12月は、前年同月比43.1%減の42,100人で、主要方面別では最も減少率が高かった。福岡－石垣路線で回復基調を維持したものの、福岡－那覇路線での減便などから、前年同月を大きく下回った。
1月は、福岡－那覇路線などでの減便規模の拡大や、国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

12月は、前年同月比35.7%減の30,400人で、主要方面別で最も減少率が低かった。中部－那覇路線で減便があったことなどから、前年同月を大きく下回った。
1月は、中部－那覇路線などでの減便規模の拡大や国や県の緊急事態宣言の影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

12月は、台湾(台北、台中、高雄)－那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月52,600人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

12月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)－那覇の3路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月10,500人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

12月は、中国(上海、杭州、南京、青島)－那覇の4路線が全て運休になっていること、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月47,400人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

12月は、香港－那覇路線が運休になっていることに加えて、観光目的での日本への入国制限措置がとられたことなどから、前年同月24,100人から皆減となった。
1月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。